

クロサイとシロサイの違いは？

アニマルフォトグラファー
トラベルライター

平 岩 雅 代

アフリカに暮らす野生動物のなかでも、サイは姿を見るのが難しい動物のひとつにあげられます。

その理由は元来サイは巨体の割に臆病な動物であること、視力が悪く相手はかなり接近しないと、相手を識別することができないこと、密猟者に狙われ、地域によっては数が激減してしまったこと、などがあげられます。

アフリカに生息しているのは、クロサイとシロサイですが、2種類のサイを同時に見ることは不可能です。それは地域によって生息しているサイの種類が違うからです。

東アフリカでは、シロサイよりもクロサイのほうが数が多く、ケニアではマサイマラ、アバーディア山ろく、アンボセリなどの自然保護区などに生息しているのが確認されています。一方シロサイは、ナクル湖畔に保護されているのみです。タンザニアでは、ンゴロンゴロ、セレンゲティなどでサイを見ることができますが、いずれもクロサイです。

シロサイは地面の近くにある丈の短い草を食べるので、草を刈り込みやすいように

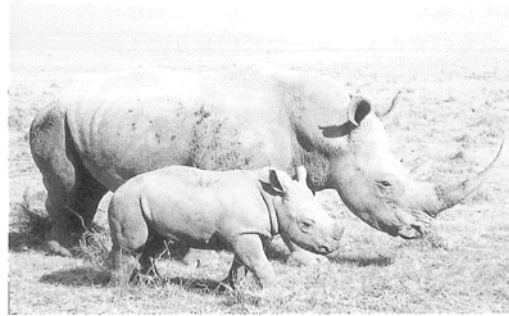


写真1 ほほえましいシロサイの父と子



写真2 シロサイの口は四角い

な型をしています。

それに対してクロサイは、立った時に顔の目の高さにある木の葉を食べるので、口が尖っており、“おちょぼぐち”です。

体の大きさ、色などはシロサイ、クロサイ

ともにほとんど変わらず、両者の決定的な違いは、口の型に尽きます。

サイの特徴であるツノは、皮膚の一部が角質化したもので、頭髪や爪のように伸びたもの切っても痛みもなく、血も出ません。

ところが密猟者は、高価に取引さされるサイのツノ（漢方薬や短剣のサヤに利用する）を手に入れるため、サイを殺してしまうのです。

かつてケニア北部のメルーという地域には、シロサイが生息していましたが、ある年のクリスマス・イブに群れごと皆殺しにされてしまいました。

ゾウと並んで、密猟者から狙われることが多いサイですが、ナクル湖畔では関係者の努力が功を奏して、かわいいシロサイの赤ちゃんが次々に生まれています。

ナクル湖は 100 万羽以上のフラミンゴが集う湖として、世界的に知られていますが、湖面をピンク色に染める無数のフラミンゴを背景に、シロサイの家族の姿は、見てもほほえましい限りです。

長い立派なツノを生やした親の傍らに、また生えたか、生えないかという子どもの顔をした小さなサイが寄り添っているのは、実にいいものです。

〈サイひとくちメモ〉

▶東アフリカ各国（ケニア、タンザニア、ウガンダなど）で話されている公用語のスワヒリ語で、サイはキファル（複数ではビファル）と呼ばれている。

▶かつてハンターたちが自慢した“ビッグ・ファイブ”とは、サイ、ゾウ、ライオン、バッファローとヒョウのことをさす。

平岩道夫&雅代父娘ケニア訪問 100回記念写真展「ケニアとタン ザニアの野生動物」開催

4月20日（金）から5月8日（火）までの3週間、東京・市ヶ谷のフォトスペース光陽（東京都新宿区市谷左内町4、トレーディングコート2階、JR・地下鉄「市ヶ谷」駅下車、徒歩2分。江上料理院向かい）で、「平岩道夫&雅代父娘ケニア訪問100回記念写真展」が開かれる。最近大型カラー写真パネル120点で、ケニアとタンザニアの野生動物の素顔を紹介するのをはじめ、抽選でペンタックス販売株式会社、コニカ株式会社など、後援・協力各社提供による賞品が抽選で当たる“写真パネル人気投票”も実施。21日（土）正午からは、ケニアとタン

ザニア両国大使を迎えてオープニングのテープカットと、立食パーティーも行われる。また29日（日）午後3時30分からは「平岩アフリカツアー」初参加の水野孝彦さん撮影によるスライド上映が、5月6日（日）午後3時30分からは、同16回参加の林美恵子さん撮影によるスライド上映が、平岩父娘のケニア、タンザニア最新観光事情のトークとともに行われる。期間中平岩父娘は毎日午前10時から午後6時30分まで、会場で来場者と応対、アフリカ旅行や動物写真撮影に関するあらゆる質問に答える。さらに今春実施された3回の「平岩アフリカツアー」参加者55名が、ケニアとタンザニアで撮影した力作を発表する「私のアフリカ傑作ミニ写真展（出品点数1,400点）も、同時併催される。入場無料。問合せは Tel 03-3316-6234